

ZEPHYROS

ゼフェロス No.20

The National Museum of Western Art, Tokyo 国立西洋美術館ニュース

ISSN1342-8071



《ルーマニアのブラウス》 1940年
油彩／カンヴァス
ポンピドゥーセンター・国立近代美術館
© 2004 Succession H. Matisse, Paris / SPDA, Tokyo
Photo: CNAC / MNAM Dist. RMN

「マティス展」

Henri Matisse : Process / Variation

会期: 2004年9月10日(金)～12月12日(日)

主催:国立西洋美術館／読売新聞社／NHK／NHKプロモーション

アンリ・マティスは、20世紀を代表する画家としてその名を広く知られています。1905年の秋にパリで開催された展覧会(サロン・ドートンヌ)に、色鮮やかで大胆な表現による作品を出品し、大きな衝撃をもたらして以来、絵画表現の新たな可能性を開いた革新者として、その名声を高めていきました。マティスの作品が持つ色彩の美しさと装飾性は、人々を魅了してやみません。しかし、一見簡単に描かれたように見える彼の作品も、実は長い熟慮と試行錯誤による賜物です。

絵とはどのように生まれてくるものなのか。この決して簡単には答えることのできない問題と、マティスは真剣に取り組んだ画家であると言ってもいいかもしれません。絵とは、あらかじめ画家の頭や心のなかにあった構想（意図あるいは意識）が、単純に絵に翻訳されたものではありません。画家と描かれる対象との対話、あるいは画家と作品との対話など、実際の作画という行為のなかで、ときに画家自身の意識をも超えて生まれてくるものです。描かれている最中に刻々とその表情を変えていく作品は、そのつど画家に問題を投げかけ、画家を試そうとするのだとも言えます。このようなある種の葛藤のもとに生まれる作品は、最終的にたったひとつの帰結を持つものとは限りません。主題はさまざまに変奏され、いくつものヴァリエーションを生む可能性をはらんでいるのです。実際、マティスは、同じ主題をまったく異なる表現（より写実的であったり、より抽象的であったり）によって表した作品を数多く残しています。

またマティス自身、作品が生まれてくる過程（プロセス）にとりわけ大きな関心をはらっていました。制作の途上で変わっていく表現を写真に撮影して記録しておくだけでなく、1945年12月にパリのマール画廊で開かれた個展では、その途中経過の写真と完成作を一緒に並べて展示させています。

今回の展覧会は、このふたつの絡み合う側面、「ヴァリエーション」と「プロセス」という視点から、マティスの作品を解き明かすことを試

みるものとなっています。同じ主題を異なる様式や技法で描き分けた作品や、制作途上を記録した写真とその完成作が展示されるだけでなく、自らが制作する姿を主題とした作品、1943年に出版されたデッサン集『テーマとヴァリエーション』のオリジナル素描なども出品されます。また、マティスが用いた様々な技法上の試みを示す作品によって、「ヴァリエーション」と「プロセス」の問題を多角的に捉えるものとなっています。マティスの作品をより深く見ることの面白さを理解してもらえる機会になると思います。

（主任研究官 田中 正之）



《豪奢 I》1907年
油彩／カンヴァス
ポンピドゥーセンター・国立近代美術館
© 2004 Succession H. Matisse,
Paris / SPDA, Tokyo
Photo: CNAC / MNAM Dist. RMN

◆「マティス展」観覧料

一般	1,300円(950円)
大学生	900円(510円)
高校生	800円(450円)
※ () 内は20名以上の団体割引料金	
中学生以下	無 料

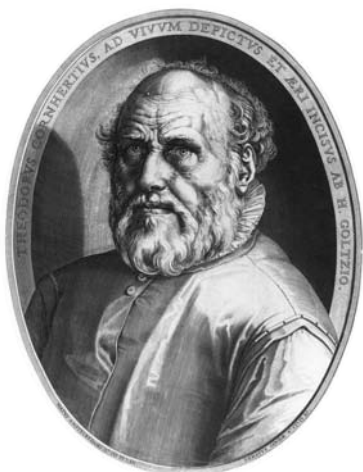
オランダ・マニエリスム版画展

会期： 2004年9月10日(金)～12月12日(日)

the national museum of western art, tokyo

1600年頃のオランダにおいて、イタリアに端を発するマニエリスムが見事な結実をもたらしたことを知る人はあまりないかもしれません。写実主義の時代として知られている17世紀オランダ美術が、その黎明期において、反写実の理念を根底にもつマニエリスムにつながっていたというのは奇妙なことかもしれません。けれども、オランダ・マニエリスムの最大の特徴が、いわば、写実と反写実との

共存にあったことを考えれば、いつのまにか非現実の世界に通じるかのような写実的描写を試みた芸術が、1600年頃にオランダで流行ったことは、決しておかしいことではなかったのです。オランダ・マニエリスムのこのような特質をもっともよく伝えるのが、エングレーヴィング版画でした。精緻な表現を可能とするこの版画技法は、ライモンディ以来、絵画の複製化の手段として用いられてきました。オランダ・マニエリスムの版画も大半は複製版画として制作されたものですが、その代表者であるヘンドリック・ホルツィウス（1558-1617）の版画を、単に複製という言葉で形容することはとてもできないでしょう。写実と反写実とを自在に行き交うかのようなその表現には、他のマニエリスム芸術には見られない、オランダ・マニエリスム独自の



ヘンドリック・ホルツィウス
《コールンヘルトの肖像》
エングレーヴィング
1591年頃

の表現意図を見ることができます。本展は、ホルツィウスを中心に、オランダ・マニエリスムを代表するエングレーヴィング版画約40点から構成されます。

(学芸課長 幸福 輝)



ヘンドリック・ホルツィウス
《イクシオン》
エングレーヴィング
1588年

◆常設展観覧料

一般	420円(210円)
大学生	130円(70円)
高校生	70円(40円)
※()内は20名以上の団体割引料金	
中学生以下	無料

資料コーナーについて

本館1階「フリーゾーン」の東側に位置する資料コーナーは、当館がこれまでに開催した展覧会カタログを自由に閲覧していただくための空間です。

展覧会に際して刊行するカタログは、その展覧会の構成にしたがって作品の基本データや解説、図版を収録するばかりではなく、企画そのものの趣旨や、それをめぐる学術研究の成果なども盛り込んで、展覧会の意義を伝える重要な役割を果たすものです。ところがひとたび展覧会が終了してしまうと、一般書店や公共図書館ではあまり目にする機会がありません。当館はこのような展覧会カタログを来館した方々に手近にご利用いただけるよう、資料コーナーの運用に取り組んできました。現在配架中のおもなものは、1994年の「バーンズ・コレクション展」から最近の「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展」までの過去10年間の展覧会カタログです。

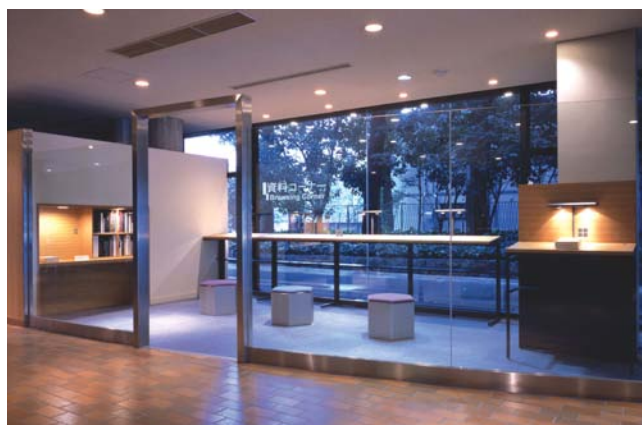


資料コーナーに置いてある
開架資料一部

このほか、当館所蔵作品カタログや年報、研究紀要などのバックナンバーも揃えています。また市販の美術事典も備えていますので、鑑賞の折に疑問に思った美術用語や作家名などがありましたら是非ご利用ください。

配架資料は保全のための装備を施したうえで2組揃え、1組は車椅子利用者が手にしやすい位置に配架してあります。どうぞ書架から取り出して手にとり、気の向くままにページを繰ってみてください。そしてご利用後は、必ず元あった場所に戻しておくのも忘れないようにお願いします。

（研究員 川口 雅子）



資料コーナー

「マティス展」に関連して下記のプログラムを実施しますので、ぜひご参加ください。

◆記念講演会

- ① 9月11日(土) 14:00～15:30 **8月28日申込締切**
 イザベル・モノ＝フォンテーヌ
 (ボンビドゥーセンター・国立近代美術館 副館長)
 「マティスの色彩」
- ② 10月16日(土) 14:00～15:30 **10月2日申込締切**
 天野知香(お茶の水女子大学 助教授)
 「アンリ・マティス、プロセスとヴァリエーション」
- ③ 11月13日(土) 14:00～15:30 **10月30日申込締切**
 田中正之(国立西洋美術館 主任研究官)
 「マティスの彫刻におけるプロセス」
- ④ 12月4日(土) 14:00～15:30 **11月20日申込締切**
 関 直子(東京都現代美術館 主任学芸員)
 「マティスのデッサンをめぐって」

会場	講堂
定員	145名(聴講無料。ただし、展覧会の鑑賞については別途観覧券が必要です。)
応募方法	往復はがきに、希望日(はがき1枚につき1希望日)、氏名(1名様限り)、住所(返信にも)、電話番号をご記入の上、下記の宛先にお申し込みください。(締切日の消印有効)。 *応募者多数の場合は抽選になります。
宛先	〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7 国立西洋美術館「マティス展」講演会係

◆スライドトーク

展覧会の見どころや主な作品について、夜間開館を行っている下記の金曜日に解説を行います。

- 日時: ①9月24日(金) ②10月8日(金) ③10月22日(金)
 ④11月5日(金) ⑤11月12日(金) ⑥11月26日(金)
 毎回18:00～(約40分)

会場: 講堂

定員: 先着145名(展覧会観覧券が必要です。)

*直接講堂にお越しください。

展示カレンダー [企画展示/常設展示] 2004年8月～2005年1月

常設展示(本館・新館)

ロダンの彫刻と、中世末期から18世紀末頃までのオールド・マスターの絵画を本館で展示しています。新館では、モネ、ルノワールなどのフランス近代絵画を中心に19世紀半ばから20世紀の絵画を展示しています。

休館日
土日・祝日

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

8

AUGUST

●
聖杯-中世の金工美術
ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による
(企画展示室)最終日8月15日(日)

●
Fun with Collection 2004 建築探検ーぐるぐるめぐるル・コルビュジエの美術館
6月29日(火)～9月5日(日)

9

SEPTEMBER

●
Fun with Collection 2004 建築探検ーぐるぐるめぐるル・コルビュジエの美術館
最終日9月5日(日)

●
臨時休館
(館内整備)
9月6日(月)
↓
9月9日(木)

●
マティス展 (企画展示室)9月10日(金)～12月12日(日)

●
オランダ・マニエリスム版画展
(新館2F版画素描室)9月10日(金)～12月12日(日)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

10

OCTOBER

●
マティス展 (企画展示室)9月10日(金)～12月12日(日)



●
オランダ・マニエリスム版画展 (新館2F版画素描室)9月10日(金)～12月12日(日)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

11

NOVEMBER

●
マティス展 (企画展示室)9月10日(金)～12月12日(日)

●
オランダ・マニエリスム版画展 (新館2F版画素描室)9月10日(金)～12月12日(日)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

12

DECEMBER

●
マティス展 最終日12月12日(日)

●
年末年始
休館
12月28日(火)
↓
1月1日(土)

●
オランダ・マニエリスム版画展 最終日12月12日(日)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

1

JANUARY

1月2日(日)～開館(常設展示)

※展覧会名、会期、内容等は変更されることがあります。

国立西洋美術館

- 所在地…〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
- 開館時間
通常…午前9時30分～午後5時30分*平成16年は6月29日から12月12日まで(ただし、秋の企画展閉会日以降の開館日から春の企画展開催日までの開館期間中＝午前9時30分～午後5時)
毎週金曜日…午前9時30分～午後8時
(入館は閉館の30分前まで)
- 休館日…月曜日(ただし、月曜日が祝日あるいは振替休日となる場合は翌火曜日)年末年始(12月28日～翌年1月1日)
- 常設展無料観覧日…毎月第2、第4土曜日と文化の日(11月3日)

- お問い合わせ…ハローダイヤル:03-5777-8600
<http://www.nmwa.go.jp/>

- 誌名について…「ZEPHYROS」(ゼフュロス)はギリシャ神話の神々のひとりで、西風を司る神様の名前です。西欧では暖かさと色さまざまな花々を運ぶ春の風をさします。

ZEPHYROS

ZEPHYROS 第20号

編集・発行 国立西洋美術館/平成16年8月20日(年4回発行)
協力(財)西洋美術振興財団
印刷(株)アイネット